

ふれあい

(題字 室原亥十二)

菊南病院 基本理念

利用者に「健康」「希望」「やすらぎ」を、その家族に「安心」を提供することにより、社会に寄与し、職員は「生きがい」と「誇り」を持ちます

基本方針 私達の提供するサービス

1.「プライマリーケア」

地域の医療・介護の窓口として種々の症状、疾患、問題に対処します

2.「急性期医療」

緊急、重症の病気に対応します。当院での対応が困難な場合は他の医療機関と連携をとります

3.「慢性期医療」

慢性疾患、リハビリテーションなどの慢性期医療を外来、入院、及び在宅で提供します

4.「予防医療」

健康の保持・増進・そして疾病の予防サービスを提供します

看護部の理念

利用者とその家族、そして自分たちの心にもやさしい看護を提供します

Contents

理事長「長生きは良いことか」	P2	職員紹介・人事異動	P5
糖尿病診療チームより臨床研究の報告	P2	水前寺高齢者複合施設 三周年記念	P6
部署紹介(外来・中央材料室・内視鏡室)	P3	ドクター古庄のサイクリング紀行	P7
入院患者様への行事食のご紹介	P4	フランスへようこそ!～言語と建築(2)～	P7

室原内科・小児科

〒862-0949 熊本市中央区国府1丁目11番9号
Tel 096-364-3080 Fax 096-366-4668

菊南病院

〒861-5517 熊本市北区藤羽田3丁目1番53号
Tel 096-344-1711 Fax 096-344-1726

水前寺高齢者複合施設

〒862-0949 熊本市中央区国府1丁目3番16号
Tel 096-364-1210 Fax 096-364-1221

長生きは良いことか

理事長 室原 亥十二

私は去る5月7日満89歳の誕生日を迎え、Happy Birthdayのお祝いを頂きました。

かつて

「いのち短し恋せよ乙女…熱き血潮の冷えぬ間に…」

これは、歌人吉井勇の作詞を唄にしたものです。

この様な夢とロマンに満ち溢れた時代もありました。

もっと昔

「人生50年化天のうちを比ぶれば夢幻の如くなり…」

と具足をまどって甲冑をつけ能舞の後、出陣におよんだ若き侍大将がいたのは有名な話です。

今様の姿は加齢と共に肉体はあえなく潰え生命力は衰え、それにともない多くの苦痛は全身に及ぶ。例外はあるでしょうが、私は長生きは良いことではないと思う。では悪いことか。これも何とも判断がつかぬまま、日一日と命長らえていくのが今の高齢者の世の姿です。

今言える事は、くれぐれも延命措置はごめんこうむりたい。家人の為にも、世の為にも。



「糖尿病診療チームより臨床研究の報告」



五月晴れの休日を利用し、菊南病院糖尿病診療チームで臨床研究を行いました。

①5月4日(祝日)、熊本県民総合運動公園に職員有志が19名集合し、五月晴れのさわやかな朝の空気のもと、ウォーキング群とジョギング群の2グループに分かれ、400メートルトラックを運動することに(5周)空腹時血糖値・血圧・脈拍がどのように変化するかを調べました。血糖値は、両群ともわずかに下がりました。血圧は、ウォーキング群で不変、ジョギング群で下がりました。前日21時より空腹の状態に参加された皆さん、お疲れ様でした。

今回得られたデータは、昨年行いまし

②5月27日(日)、新市街の某ビストロに10名が集合し、糖質が少なく脂質の多いコースランチ(栄養部の分析では糖質割合…50%)をいただいて血糖値の変化を調べました。食後2時間の血糖値は、予想より低いものでした。今後、栄養部に依頼し、糖質の割合を変えて、血糖値の研究を続けたいと思います。



たトレーニング群のデータと合わせ、10月に久留米で開かれる第50回糖尿病学会九州地方会の学会発表で使用します。

部署紹介 (外来・内視鏡室・中央材料室)

外来は受付の次に、たくさん
の利用者様にお会いするので「病
院の顔」とも言われます。「顔」
と言われて恥ずかしいくないよう
に、精一杯の笑顔で皆様をお迎
えし、検査や治療による苦痛が
少しでも楽に感じられるように、
研修や勉強会に参加して技術向
上に努力しています。



外来

外来診療科は内科、消化器科、
循環器科、整形外科、乳腺外科、
呼吸器科、神経内科があり、特殊
検査（心臓・頸動脈・下肢静脈エ
コー・運動負荷検査、嚥下検査、
24時間心電図、24時間血圧、無呼
吸症候群の検査ほか）や禁煙外来、
糖尿病教室・栄養指導などを行っ
ています。

外来スタッフは、診察介助、採
血、心電図などの検査、注射・輸血・
化学療法など数多くの業務にたず
さわっています。新患数・再来者
数も増加している中、時に急患対



応も求め
られる為、
時間管理
に奮闘し、
満足して
頂ける医
療の提供
を目指し
ています。

内視鏡

内視鏡室スタッフはスコープ、
洗浄器・パソコンなど精密機械に
囲まれて、胃・大腸内視鏡検査、
ポリープ切除術、胃瘻造設術など
検査・治療の介助に従事していま
す。専門的知識と技術が要求され



るため、内視鏡技師の有資格者が
3名在職し、後輩も続いてその資
格を目指しています。胃腸の疾患
は内視鏡でしか見つけられないこ
とが多いので定期的に検査を受け
る事をお勧めします。検査の際は
ほとんど眠ってしましますが優し
く手厚い対応をしていますので安
心してお任せ下さい。

中央材料室

中材室は病院全体の医療器具
や医療材料の滅菌・消毒を取り
扱うところで、専門的資格を持っ
たスタッフが担当しています。
院内感染予防の為に重要な部署
です。



私達はこれからも皆様の健やか
な毎日に寄り添えるように、「お
大事になさいます」という気持ち
を込めてお手伝いしたいと思います。

菊南病院のご利用者様より、心温まる随筆を寄稿していただきましたので、ご紹介致します。

私は五年來入退院を繰り返して、菊南病院にお世話になっております。

感動したお話を伝えたいと思います

ただ二文字の遺言

阿部 勝 児

過日、「NHK全国短歌大会」の放映をテレビで拝見した。ご覧になられた方も多く居られた事と存じますが、その際、私が強烈な感動を受けた作品があったので、それをこの欄でご紹介したいと思います。

それは、

指をもて 叔父は叔母の掌に「あほ」と書き かすかに笑ひ そして逝きたり

御臨終の迫る叔父様には、すでに語りかける力も文を書く力も残っていませんと思われます。そして万感の気持ちをつたったこの二文字に書き残したのです。その中には、何十年苦楽を共に生きてきた奥様だけに判る意味が込められていると思われます。

「長い間苦勞をかけたなあ」「今でも愛しているぞ」「元気で長生きしろよ」等々、語りかけた事は山ほどあった事でしょう。それを、この「あほ」に凝縮して充分奥様には通じると思われたのでしょうか。

最後のかすかな笑ひが、それを物語っております。それだけで奥様にも充分判った事と思えます。何十年來の信頼と、その強い絆を感じました。実に素晴らしい光景だった事でしょう。そこに最高の夫婦像を見た思いです。

「あほ」な奥様に手を握られて逝かれた叔父はとても幸せだった事でしょう。

菊南病院 入院患者様への行事食のご紹介



6月17日(日) 父の日

父の膝にだかれて眺めた
雨に打たれる色とりどりの紫陽花の花...
きらきら宝石のように光って...
何時までも眺めていました。

「一雨ごとに大きくきれいになるんだよ」
いやな雨の日が少し好きになりました。

6月、梅雨の季節
雨に打たれる紫陽花を見るたび、
若かった頃の父の姿を思い出します。

“お父さん いつもいつも ありがとう”

2012.06.17 菊南病院 栄養部

《父の日》



—MENU—
お父さんおにぎり、アクアパッツァ、
プレート盛り、人参ポタージュ、
ティラミスとアイスの盛り合わせ



《こどもの日》



—MENU—

鯉のぼり寿司、盛り合わせ、
野菜のロール巻き、鯛の潮汁、
ヨーグルトムース

H24.4.29 わらび狩りへ行かれた
当院院長、菊水学園の生徒さん及
びロータリークラブの皆さんから頂
いたわらびです。

グラタンと白和えを患者様に美
味しく召し上がって頂きました。



《母の日》



—MENU—

山菜握り寿司、母の日プレート
(かき揚げ・唐芋の蜜煮など)、
貝汁、カーネーションゼリー

《その他》



ふれあい ア・レ・コ・レ

菊南通所リハビリテーションから嬉しいニュースです。なんと!?新しい送迎車が2台納車になりました。

早速、ご紹介いたします。

まずは、ダイハツのタントです。テレビコマーシャルでもよく見かける車ですよ。スライドドアで乗り降り簡単!しかも、後部座席を折りたたむと、車椅子を乗せる事ができるんです!小回りも利いて一石二鳥。座り心地も快適ですよ。

続いては、トヨタのハイエースです。電動リフトで車椅子利用者さんの送迎も楽々!車椅子3台も乗せる事ができる広々空間で、座席を調整すれば、いろんなパターンでの送迎が可能になる多機能車なんです。

新車の匂いに、我々スタッフも気持ち新たに、より安全に利用者さんの送迎を心引き締めたいです。これからは益々より良いサービスが提供できるように精進していきたいと思っています。

これからは菊南通所リハビリテーションを宜しく願います。



タント



ハイエース

職員紹介

室原会に平成24年4月3日以降入職した職員をご紹介します。

菊南病院

○看護部 看護師 ○



坂崎 昌代
(外来)

○薬剤部 薬剤師 ○



雄野 智子

○事務部 ○



川述 雅裕
(環境管理課)



村井 亜樹
(三病棟)

○リハビリテーション部 作業療法士 ○



加藤 愛弓



田上 留美
(医事課)

○看護助手 ○



和田 希世



よろしくお願いいたします

菊南病院では、平成24年6月1日付にて人事異動が行われました。昇格及び部署移動、兼務人事をご紹介します。

【昇格】

氏名	新職名	旧職名
佐藤 典子	看護部外来師長	看護部外来係長
徳永 由美子	看護部二病棟師長	看護部一般病棟係長
加世田 まゆ	熊本市北2地域包括支援センター課長	熊本市北2地域包括支援センター係長
合澤 希	看護部二病棟主任	看護部一般病棟看護師
中元 愛子	リハビリテーション部理学療法科主任	リハビリテーション部理学療法科理学療法士
江崎 慈	事務部総務課主任	事務部総務課職員

【管理者選任】

氏名	新職名	旧職名
坂田 直美	訪問介護管理者 兼 訪問看護ステーションきくなん看護師	訪問看護ステーションきくなん看護師
坂田 公子	訪問看護ステーションきくなん管理者	訪問看護ステーションきくなん看護師

【部署異動】

氏名	新職名	旧職名
水上 寛子	医療安全管理室長	看護部二病棟師長 兼 医療安全管理室長
田口 由利子	居宅介護支援事業所きくなん主任	訪問看護ステーションきくなん主任 兼 居宅介護支援事業所きくなん主任 兼 訪問介護主任

【施設間兼務】

氏名	新職名	旧職名
西村 俊也	事務部次長 兼 水前寺高齢者複合施設総括マネージャー	事務部次長

職員が働きやすい職場作り、またご利用者様、患者様に「安心」してサービスを提供できますようより一層励んで参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

水前寺高齢者複合施設 三周年記念

平成 24 年 4 月 16 日 (月)

地域の皆様に支えられ、今年で三周年を迎えることができました。施設の開設にあたりお世話になった方々をお招きし、ボランティアの方や職員による催し物で賑わいました。最後に記念品と紅白まんじゅうが贈られました。



理事長挨拶



来賓祝辞



利用者様祝辞



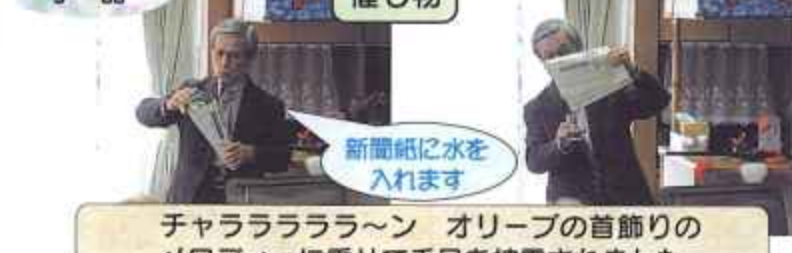
理事長挨拶後、来賓の方や今年 100 歳になられたご利用者様から祝辞をいただきました。

くす玉割り



手品

催し物



チャララララ〜 オリーブの首飾りのメロディーに乗せて手品を披露されました。

オカリナ



ボランティアの方によるオカリナ演奏。故郷など馴染みのある唄で聴き入ってました。

島唄ライブ



ボランティアの方によるライブ。沖縄の方言であいさつあり、三線に合わせトークと唄で盛り上がりました。

ソーラン節



職員出し物でソーラン節を踊りました。

ドクター古庄のサイクリング紀行

菊南病院副院長
古庄 伸行

10. 自転車で阿蘇を走る

熊本が世界に誇る阿蘇。自動車だと手軽に行くことができますが、自転車で長い坂を登り、阿蘇の風に吹かれながら車あまり通らないような細い道に行くのもまた違った趣があります。JR 阿蘇駅や南阿蘇の阿蘇望の里・久木野にはレンタサイクルが用意されていて、阿蘇神社周辺の水基巡りや、役犬原湧水群、中通古墳群、南阿蘇の湧水群などを廻ることができます。その他にも、一般の人にはあまり知られていない穴場的スポットが阿蘇にはいくつもあり、そのひとつが「ラピュタの道」という場所です。北外輪山の、かぶと岩展望所からミルクロードを3キロほど南へ行行ったところにあります。今年の5月、「ラピュタで会おう 2012」というイベントが開催されました。「思い思いのルートで、5月20日の正午にラピュタの道の展望地点に自転車で集まろう!」という集合型のサイクル・イベントです。わたしは知り合いのグループ十数名と熊本



「ラピュタの道」の展望地点で記念写真

瀬田線で立野に上がり、長陽大橋を渡り、東海大学の横から赤水に上がって、狩尾の尾ヶ石という所から北外輪山の「ラピュタの道」を登って集合しました。九州全域から約50名の自転車乗りが集まり、思い出深い一日になりました。



エッセー **Bienvenue en France!** (フランスへようこそ!)

診療部
吉村 文長

la langue et les architectures
(言語と建築) (3)

お次は、パリの西、凱旋門より約2キロにある、新都心 la défense(ラ・デファンス)地区にある、La grande arche(ラ・グランドルシュ:新凱旋門)です。これは、フランス革命 200 周年を記念して1989年7月14日に竣工した“門”などですが、外枠構造は白亜の大理石とガラス張りの高さ110メートルの36階建てのオフィスビルとなっており、中が空洞になっていて、そこにフランス・ゴシック建築の最高峰である、ノートル・ダム大聖堂(高さ90m)が尖塔を含めすっぽり入ってしまう大きさなのです。スケールの大きさ、斬新さに、フランス人の芸術性、独創性の濃さを見出してしまいます。また、これは、デンマーク人の建築家のスプレケルセンという人の設計なのですが、三次にわたるコンペの末に採用されたそうで、自国民のみならず、他国の人も平等に受け入れる、フランス国民の懐の深さを象徴しています。(前号で紹介しましたシャガールはロシア人。芸術の分野では、日本の北野武氏が評価されていたりする。école de paris:パリ派の画家レオナルド・フジタ:藤田嗣治は殊に高名)

最後に、時間のない人向きには、フランスの空の玄関“シャルル・ド・ゴール空港”そのものがお薦めスポットです。空港のターミナルビルに興味を持つ人は余りいないでしょうが、よくご覧ください。各ゲートの壁がガラス張りに半曲線を描いていたり、ゲート先端が先細り、あたかも鳥の羽のように作られていたり・・・(アール・ヌーボー調?)。*おお、これは凄い!*と一人感動しておりました。本当に日本人にはない感性なんです、これが。(注:第二ターミナル、日本航空が利用。全日空の場合は残念ながら、第一ターミナル使用

のため、見れません。また、第一ターミナルは古くて、狭く、免税店も殆どありませんのでご注意ください)

そんな訳で、実際に訪仏しますと、百聞は一見に如かず、昔も今も世界中の人々を魅了して止まない理由がよく解ります。私の好きな建築のみならず、歴史、文化、芸術、装飾、街並み、料理……。皆素晴らしいのです。特に高さが規制・統一された街並み(19世紀後半セーヌ県知事・オスマンの功績)は、特筆もので、石原都知事が、都の都市計画の参考に芸術家の四男をパリに派遣しようとした気持ち、よく解ります。前述しました“言葉”に関しては、主な観光地や日本人が利用するホテルやレストランでは、大概英語が通じますので、安心して御旅行下さい。最後に結論、“今時のフランス人は、英語を話す!!”です。



ラ・グランドルシュ(La grand arche 新凱旋門)近影:これがオフィスビルとは驚きです

◆外来担当医当番表◆

平成24年5月7日～

菊南病院

		月	火	水	木	金	土
午前 診療 (9時～12時) 受付 (9時～11時)	1診	室原	赤星	室原	室原	室原	室原
	2診	古庄	加古	古庄	加古	加古	赤星
	3診	整形外科 前田(予約)	整形外科 前田(予約)	吉村	寺田	整形外科 前田(予約)	☆梅田(第2,4週) ☆吉村(第1,3,5週)
午後 診療・受付 (13時～17時)	1診	梅田 (予約)	梅田 (予約)	室原 (予約)	室原 (予約)	梅田 (予約)	休診
	2診	大脇	中島	当番医	吉村	禁煙外来 古庄(予約)	
	3診	呼吸器 14時～16時 松岡(予約)	—	神経内科 14時～17時 守屋(隔週)	—	赤星	

☆隔週で担当が異なりますのでご注意下さい。

●休診日：日曜、祝日、年末年始等 ※但し、急患の場合はこの限りではありません。

一医師情報一

梅田	高血圧・内分泌 ※要予約(午後の診察)
松岡	呼吸器 ※要予約
守屋	神経内科 ※隔週：第1・第3・第5水曜日

★都合により受付終了時間が早まる場合がございます。ご了承くださいませ★

平成24年4月1日現在

室原内科・小児科

		月	火	水	木	金	土
午前	室原亥十二	室原亥十二	室原亥十二 高血圧外来 (Dr.梅田)	休診	室原亥十二 毎月第二・第四金曜日 腹部エコー検査	室原亥十二 糖尿病外来 (Dr.後藤)	
午後	室原亥十二	室原亥十二	室原亥十二 喘息外来 (Dr.藤井)	休診	室原亥十二 心臓外来 (Dr.室原良治)	室原亥十二 心臓外来 (Dr.室原良治)	

●診察日・時間：月～土曜日(木曜日を除く) 午前8:30～午後6:30

●休診日・時間：木曜日・日曜日・祝祭日・年末年始等

《その他の教室》毎月第二火曜日 午後2時より「生きがい塾」

毎週月・水曜日・午前 「ハツラツ健康運動教室」

毎週土曜日・午後 「気功教室」中国医療気功整体師 池田知良先生

編集後記



6月4日午前10時、室原病院を出た矢先、スポーツ大会の応援に駆けていた高校生の自転車の大群に背後から激突され、歩道に転倒した。何事が起こったのか茫然自失。担当の先生の車で近所の病院に急いだ。

7回のレントゲンの結果、骨折はない様だが捻挫・体の方々の打撲。スラックスの布を通り膝は血だらけ、その日から私の自由行動はすべてストップし、7月半ばとなった未だに傷あとが痛々しい。夜は興奮して、群れをなしておそいかなる少年の姿がちらつき、眠れぬ夜が続いた。一番ひどい傷は左足の甲・踵で、冷やして湿布で足を高くし、腫れや痛みと闘っている。

歩道いっぱい列で飛び交う自転車がこわいと細心の注意を払っていた私。どうしてこんなひどい目にあったのだろうか。悪夢を見ている様だった。

家事も主人の世話も出来ないのので、入院を、と主人も言ってくれたが、90歳近いの主人を置きざりにはとても出来ない。痛みと余りにもの不甲斐なさ。思い切つて熊日新聞「ハイこちら編集部」に電話したら、翌日の夕刊に「道路はお年寄りも子供も歩いている。自転車での死亡事故も増えている。歩行者の事を考え、自転車は充分気をつけて」と記事にしてみました。

7月半ば過ぎとゆうのには、CT・MRI等撮り、専ら足のケガと格闘中、未だ車椅子と杖は手放せない。

今回の編集後記は、想定外の私のグチばかり。どうぞ皆様、ベルもならさず猛進する自転車には、私の二の舞を踏まぬ様、充分ご留意下さい。

高齢もあつて、薄紙を測く様な日々ですが、必ず快方に向かう事を信じて頑張っていきます。皆様のあたたかいお慰め、誌上より心を込めてお礼申し上げます。

最後になりましたが、阿部勝見様の寄稿、たまたま文字の遺言、感銘深く拝見いたしました。ありがとうございます。

編集長 室原 鈴子